



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2023年12月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	12月度	下期累計	12月度	下期累計
百貨店事業	4.3	8.7	7.3	11.5
SC事業	9.5	9.8	10.7	15.5
デベロッパー事業	▲ 3.5	13.6	▲ 1.4	16.0
決済・金融事業	▲ 1.0	▲ 6.7	▲ 1.0	▲ 6.7
その他	▲ 27.5	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 19.5
連結合計	0.2	5.1	6.3	11.2

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- ・ 12月度の売上高は、訪日外国人売上の好調もありラグジュアリーブランドや化粧品が好調であったことに加え、菓子・レストランなどクリスマス、年末年始に関する売上も伸長したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年7.3%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同7.3%増となった。
- ・ 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年167.4%増(客数同157.0%増、客単価同4.0%増)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年0.8%増であった。
- ・ なお大丸松坂屋百貨店の1月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、初売りが堅調にスタートしたほか、化粧品、ラグジュアリーブランド、宝飾品が好調に推移していることなどから、15日までの累計で対前年7.6%増(対2019年度▲6.2%減、対2018年度▲10.5%減)、国内売上高は同0.6%増(対2019年度▲7.1%減、対2018年度▲14.5%減)で推移している。
- ・ 免税売上高は対前年139.5%増(対2019年度1.3%増、対2018年度39.4%増)で推移している。

2) SC事業

- ・ 12月度のテナント取扱高は、冬期休暇に伴う人流の増加や訪日外国人客の取り込みにより、全店舗計(既存店)で対前年14.5%増となった。アイテム別取扱高では、継続して好調の旅行を含む「その他」が対前年23.3%増、ゲームキャラクターなどのコンテンツを含む雑貨が同17.5%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- ・ デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズ、J.フロント都市開発が増収となったものの、J.フロント建装が、前年の百貨店改装工事の反動により減収となり、全体でも減収となった。
- ・ 決済・金融事業のJFRカードは、主にポイント費の増加などによって減収となった。
- ・ その他は、卸売業の大丸興業が、電子部品、自動車部品の不調等により減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2023年12月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	12月度		下期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	20.7	23.8	33.1	38.5
大丸 梅田店	0.7	1.3	6.7	13.6
大丸 東京店	6.2	6.4	14.2	13.4
大丸 京都店	6.8	▲3.3	12.8	4.7
大丸 神戸店	4.3	10.1	7.0	11.1
大丸 須磨店	▲1.6	▲4.0	0.2	▲1.9
大丸 芦屋店	1.7	4.8	1.8	4.8
大丸 札幌店	24.7	5.3	20.8	8.8
大丸 下関店	▲7.0	▲5.4	▲7.9	▲4.3
松坂屋 名古屋店	4.6	7.9	6.4	8.8
松坂屋 上野店	1.0	22.6	5.1	24.3
松坂屋 静岡店	▲0.0	9.4	▲0.6	9.9
松坂屋 高槻店	▲1.5	3.4	▲1.0	7.2
店 計	8.0	6.7	12.3	12.9
法人・本社等	▲14.6	-	▲4.6	-
大丸松坂屋百貨店合計	7.3	6.7	11.7	12.9
うち商品売上高	7.1	-	11.5	-
うち不動産賃貸収入	13.0	-	18.7	-
博多大丸	7.6	9.2	11.0	10.0
高知大丸	2.2	▲0.8	▲0.7	▲4.1
百貨店事業合計	7.3	6.8	11.5	12.5

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	12月度	下期累計
紳士服・洋品	▲18.8	▲15.3
婦人服・洋品	19.2	21.9
子供服・洋品	4.8	4.9
その他の衣料品	▲6.4	▲1.9
衣料品計	13.2	16.0
身 回 品	3.3	8.9
化粧品	28.0	28.0
美術・宝飾・貴金属	0.9	7.0
その他雑貨	▲3.6	▲2.1
雑 貨 計	11.5	14.8
家具	▲3.7	▲5.7
家電	▲0.8	2.2
その他の家庭用品	3.6	11.2
家庭用品計	1.9	6.9
生 鮮	▲2.1	1.1
菓 子	5.3	7.8
惣 菜	0.6	4.4
その他食料品	▲4.3	▲5.1
食料品計	0.6	3.1
食堂・喫茶	11.0	15.7
サービス	▲13.3	4.8
そ の 他	▲30.1	▲14.7
合 計	7.1	11.5

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、平年より気温が高く推移したことにより、コートなどの防寒衣料が不調だったものの、ラグジュアリーブランドが引き続き売上を牽引した。紳士服・洋品は、コートやブルゾンなどが不調だったことや品番移管の影響により、対前年マイナスとなった。身回品では、ハンドバッグ、旅行用品が好調を維持した。雑貨では、化粧品、美術工芸品が大きく売上を伸ばした。食料品ではクリスマスケーキが好調であったことや年末年始での手みやげ需要により菓子が売上を伸ばしたほか、食堂・喫茶が好調を維持した。

2023年12月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	12月度	下期累計
札幌PARCO	27.2	27.7
仙台PARCO	11.7	11.0
新所沢PARCO	4.6	▲3.2
浦和PARCO	10.0	9.3
池袋PARCO	19.7	15.2
PARCO_ya上野	25.0	29.6
ひばりが丘PARCO	5.6	6.5
吉祥寺PARCO	17.3	21.4
渋谷PARCO	34.7	55.1
錦糸町PARCO	14.9	19.1
調布PARCO	2.7	7.4
松本PARCO	▲11.2	▲1.2
静岡PARCO	▲9.4	▲6.5
名古屋PARCO	8.7	18.8
心齋橋PARCO	22.3	38.5
広島PARCO	9.7	12.5
福岡PARCO	11.1	19.8
全店計	10.7	15.5
既存店計	14.5	19.8

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	12月度	下期累計
衣料品	4.2	6.8
身回品	13.7	16.6
雑貨	17.5	26.6
食品	▲0.7	0.6
飲食	9.0	11.5
その他	23.3	35.5
合計	10.7	15.5

3. 営業概況

- ・ 12月度のテナント取扱高は、冬期休暇に伴う人流の増加や訪日外国人客の取り込みにより、全店舗計（既存店）で対前年14.5%増となった。
- ・ アイテム別取扱高では、継続して好調の旅行を含む「その他」が対前年23.3%増、ゲームやキャラクターなどのコンテンツを含む雑貨が同17.5%増となった。